

2008年第3四半期決算 コンファレンスコール

質疑応答要旨

Q. 下方修正の要因について

A. グローバル戦略の推進・ソフトベンダー事業・プロダクトディストリビューションビジネスの拡充・経営インフラの拡充については、期初からの説明のとおり順調に推移している。

大きく異なるのは、製造ソリューション、基盤エンジニアリングソリューション、証券業向けソリューションビジネスで、70億円の売上高減少を予想した。これらは、例年の期末偏重基調にあったシステム販売等の案件については、このような厳しい経済環境下では見込みづらく、また、証券業界向けの案件については、現状のトレンドを分析の上、一定割合のマイナスを見込んだ結果である。

Q. 来期見通しについて

A. ソフトウェア開発においては、第3四半期の受注高・受注残高が2桁の伸びを示しており、来期以降1つの大きな強化ポイントであると考えている。

ただし、製造ソリューション向け及び証券業ソリューション向け案件については、当座厳しい状況が続くだろう。

ERPの再構築案件やソフトウェア開発案件については、保険・住友商事向け案件を始め、すでに内示を頂いている案件も含いくつかあるため、しっかりと受注に結び付けていきたいと考えている。

Q. 合併時の目標の進捗について

A. 合併後、特にここ2年は、好調な状況を背景にバリュエーションそのほか高いレベルで推移することができたと思っている。

その中で、このような経済環境となり、業界内の合従連衡が考えられる状況になっているかと思っている。

当社にとっても、様々な機会が出てくると思うし、機をとらまえて事業を大きくし、企業価値を向上させる努力は続けていく。

なお、SAP・ORACLE・ProActiveの売上高は以下の通りとなっております。

2007年度3Q累計：SAP 62億円、ORACLE 14億円、ProActive 25億円

2008年度3Q累計：SAP 63億円、ORACLE 15億円、ProActive 36億円

以上